

2019年3月1日(金)

未来への扉

高等特別支援学校支援部 117号



祝卒業!

～愛情をお土産に～

この学校では大人、社会人になるための準備をしています。生徒達の意識のなかで今は「こども半分、おとな半分」といった期間でしょうか?働き始めたら100%おとな。こども気分の味わえる最後の期間も楽しんで欲しいと思います。

こんなことがありました。クラスの生徒で、こんなに優等生でここにストレス出しているのかしら?と心配になるほど真面目で良い子がいました。担任を2年間持ちましたが、一度だけ強く不満を言ったことがありました。

「私だけ、個人懇談が短い!他のみんなは長いのに!私だけ!」

個人懇談は、学期ごとにひとりひとり10分くらいずつ時間を設定して、個人の目標や課題の振り返りをしていました。この生徒は意識高く取り組んでいたのも、確かに確認することも少なく、時間も短めになりました。でもそこ、そんなに怒る?と思ったのですが、下に紹介する“愛情が伝わる5つの方法”を読んで納得しました。

- ①言葉 ほめ言葉・感謝の言葉・励ましの言葉など
- ②時間 一緒に良い時間を過ごす・熱心に話を聴くなど
- ③物 プレゼント(高価でなくてもよい)・手紙など
- ④行動 その子のためにしてあげるサービス行為など
- ⑤スキンシップ ふれあい・ハイタッチなど

上記のうちの1つだけでなく、2、3つある人もいます
そして成長と共に変化する場合もあるでしょう

人から人へ“愛情が伝わる5つの方法”があるとカウンセラーのゲイリー・チャップマン氏がその著書で書いています。人それぞれ先ほどの5つのような自分好みの方法があるそうです。その方法が発信する保護者と受け取る生徒が全く同じ方法であればバッチリ愛情が伝わりますが、違っていたら大変!一方は送り続けているのに、受け手に全く伝わっていない場合もあるかもしれません。

先ほどの生徒は、②の“時間”だったのでしょ。時間が少ないイコール自分への愛情が足りないと感じた訳ですから、怒る気持ちになったことも分かります。不満は不満として、相手に伝えることができるのは健全ですよ。次からは時間をたっぷり取るようにしました。

他の項目は何となく分かる気がするのですが、③の“物で愛情を感じる”という、少し構えてしまいます。“物欲?”ととらえられがちですが、そうではありません。「忘れてしまう子」がそれに当てはまることが多いそうです。声も掛けてくれた、話も聞いてくれた、でもそういったことをどんどん忘れていってしまうタイプの子がいます。思い出が消えてしまう子にとって、ちょっとしたカードやお土産など、具体物を見ることで可愛がられたことが証として残ります。

そう考えると、お土産のキーホルダーをジャラジャラたくさん付けたい気持ちや、手帳にいっぱいプリクラシール(まだありますよね?)を集めたい気持ちも分かりますね。物のひとつひとつが愛情に関わる思い出ならば、どんなにボロボロになっても捨てる気にはならないのでしょう。たくさんある、ということは自分がたくさん愛された事を物が証明してくれるのです。

「ぼくはすぐ忘れてしまうんです。」

私がこの学校で勤めている長い間、何度も聞いた言葉です。忘れてしまう子には、物に覚えておいてもらっているのでしょうか。楽しい外出先で安い小物のおねだりはありませんか?保護者のおサイフ事情を考えながらのことかもしれませんね。

生徒達はどうでしょう?ハイタッチやグータッチ(⑤)が好きな生徒もいますし、励ましの言葉(①)でとてもがんばれる生徒もいます。

このように人によって“愛情の伝え方のツボ”は違うようです。

保護者のみなさん、自分がこどもの頃を思い出してみてください。自分のお好みの方法は何番だったと思いますか?その頃大人からどんなことをしてもらったら「自分は可愛がられているんだ。」と感じましたか?それは満足がいくようにたっぷり受け取れましたか?大人達が発信してくれた方法と自分が受け取りたい方法が同じだったら、そんな幸せなことはありません。

目の前のこどもはどんな方法がお好みだと思いますか?

私の息子はたぶん②の時間だと思います。とにかく、父親や叔父達大人に遊んでもらうことが大好きでしたから。今でも叔父は“ボウリングで遊んでくれる人”のようで、盆正月休みの度に2人で仲良く出掛けます。母親の私はお世話係くらいの扱いで、おいしいところは全部持っていかれ、損をした感じです。

さて?目の前のこどもは?

愛情たっぷりの手間暇かけたお弁当(④)で満足というこどももいれば、お弁当はどんなものでも当然として「最近早起きがんばっているから、お弁当のお肉増量!」のひとこと(①)のほうが嬉しいこどももいます。

この3年間は大人、社会人になるための準備をしてきました。

社会という大海原に船出する生徒達は、“仕事をする体力”や“社会性”など必要となるものを積み込んできました。特に最後の1年間は、周囲の進路状況にも気を遣いながら、友達は進路先が決まっているのに、自分はまだという状況もある“我慢する力”を積み込むしんどい日々を過ごした生徒も多いはず。

最後にしっかり“愛情”も積み込んであげてください。

こどもとしての最後のこの月日に、そのこどもに分かりやすい、一番のお好みの方法で愛情をたっぷり伝えてあげてください。きっと大海原を渡っていく最高のエネルギーになるでしょう。

御卒業おめでとございます。

